

# 三洋貿易株式会社 2018年9月期 決算説明資料

2018年11月27日

## 第一部

2018年9月期連結決算実績 / 次期見通し

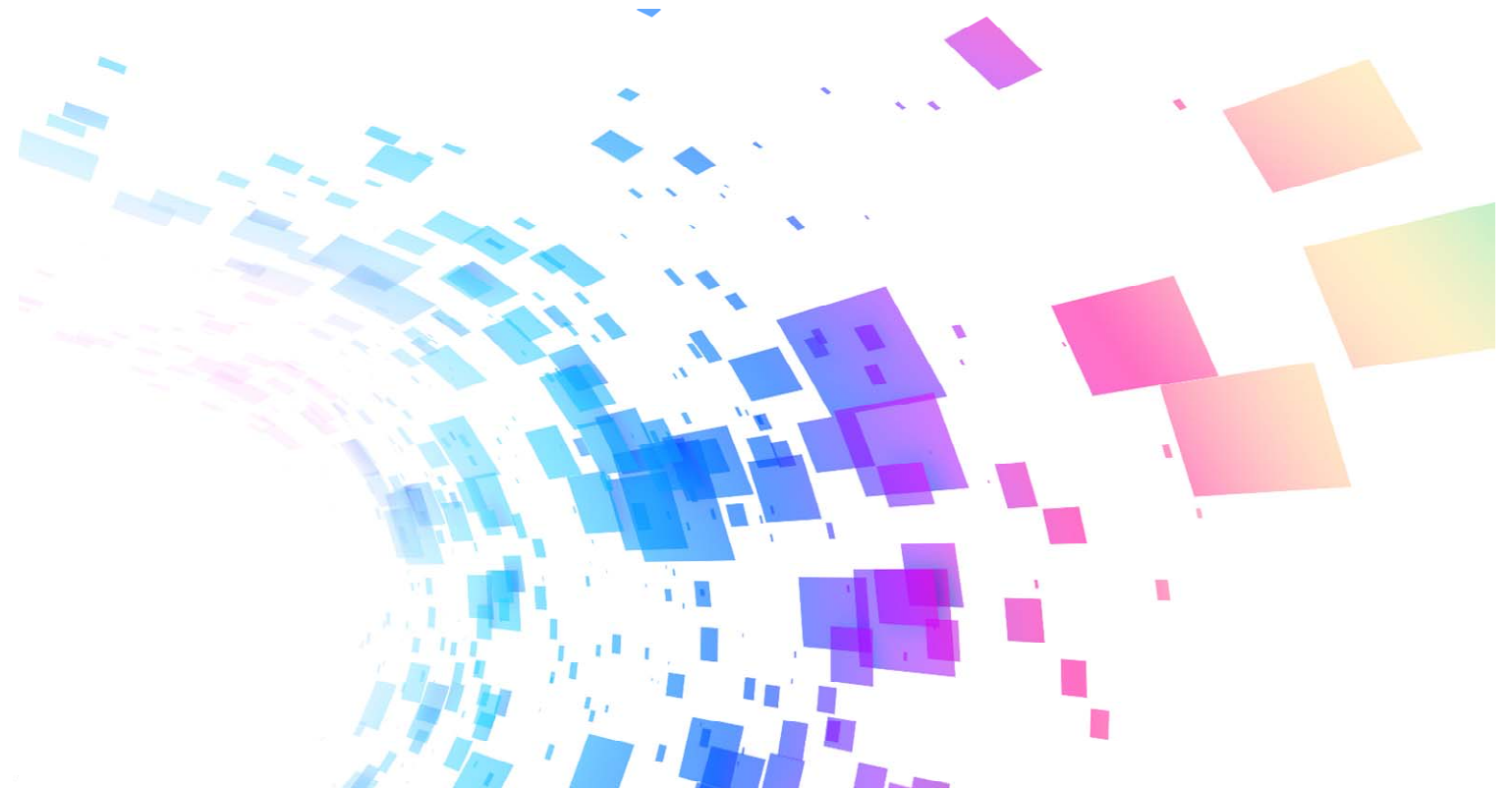
## 第二部

VISION2023 (新長期経営計画)

## APPENDIX

会社説明資料

# 第一部-① 2018年9月期連結決算実績



9期連続の経常増益達成、過去最高益更新

機械資材・海外現地法人セグメントが  
自動車関連により好調

木質バイオマス関連で大型案件実現し、受注も順調

前期比で通期 5 円増配、年間配当は64円

# 2018年9月期 連結決算実績

- 期初計画していた基礎固めを実行も、前期を上回る想定以上の増益
- 本業である自動車関連ビジネスや海外展開が好調に推移したため、上振れ
- 更に、海外子会社での保有株式売却による特別利益が、最終利益を押し上げ

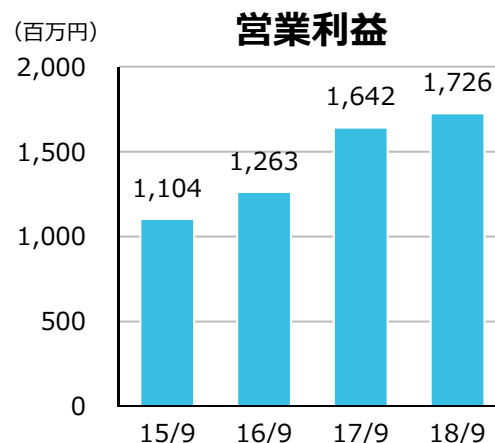
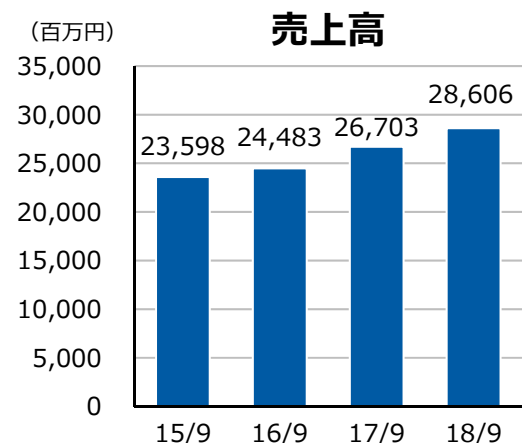
(金額単位：百万円)

	2017年9月期	2018年9月期				
	金額	金額	前期比 増減率	構成比	修正計画 (2018/8/3公表)	計画比
売上高	67,738	78,450	15.8%	100.0%	80,000	△1.9%
売上総利益	12,264	13,410	9.3%	17.1%	-	-
<売上総利益率>	18.1%	17.1%	-	-	-	-
販売費及び 一般管理費	7,325	8,147	11.2%	10.4%	-	-
営業利益	4,938	5,263	6.6%	6.7%	5,070	3.8%
経常利益	5,270	5,575	5.8%	7.1%	5,270	5.8%
<経常利益率>	7.8%	7.1%	-	-	6.6%	-
親会社株主に帰属 する純利益	3,351	3,635	8.5%	5.0%	3,500	3.9%
EPS (円)	234.20	253.99	-	-	244.53	-
配当 (円)	59.0	64.0	-	-	62.0	-

# 2018年9月期 セグメント別 売上・利益の変動要因①

## 化成品

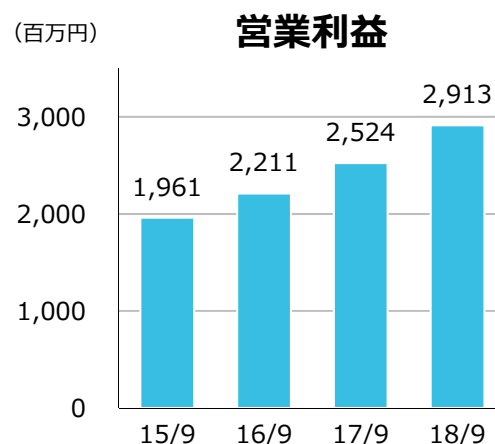
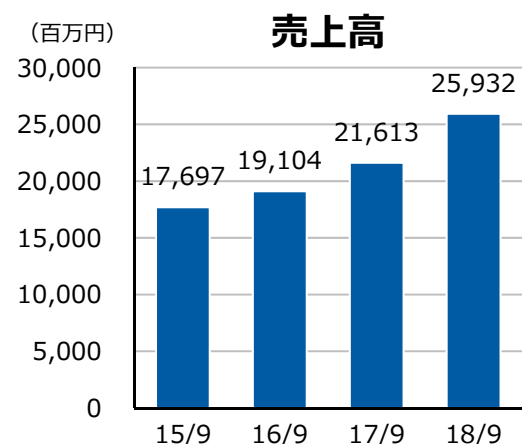
(金額単位：百万円)



	金額	前期比増減率
売上高	28,606	7.1%
営業利益	1,726	5.1%

- ゴム関連商品：主力の自動車・情報機器に加え、建機向けの合成ゴムや添加剤などの副資材が好調。また輸出商材の販売が堅調に推移。
- 化学品関連商品：主力の塗料・インキ原料やフィルム・電材輸出が堅調。また、香料や畜産・農薬関連商材、アジア向け輸出が好調に推移。

## 機械資材



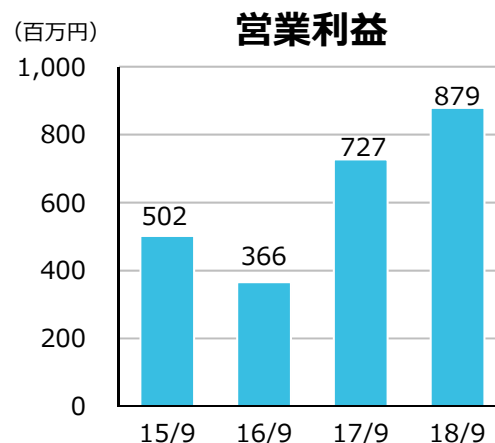
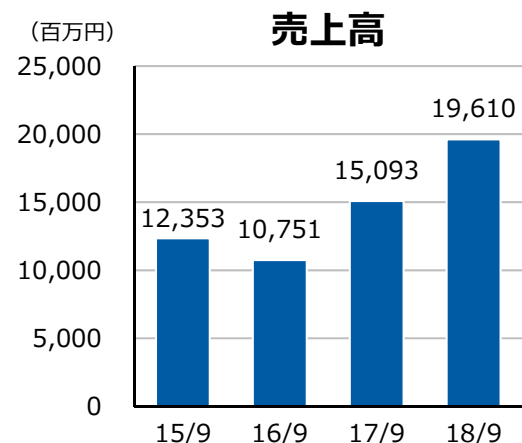
	金額	前期比増減率
売上高	25,932	20.0%
営業利益	2,913	15.4%

- 産業資材関連：シート周辺部品が、世界的な市場の快適志向の高まりを背景とした高機能性部品の採用車種増加により好調に推移。
- 機械・環境関連：木質バイオマス分野で熱電併給装置の大型案件が実現。ペレットミルの販売も堅調に推移。
- 科学機器関連：主力の摩擦摩耗試験機や耐候性試験機が好調に推移。バイオ関連の新規商材販売が伸長。

# 2018年9月期 セグメント別 売上・利益の変動要因②

## 海外現地法人

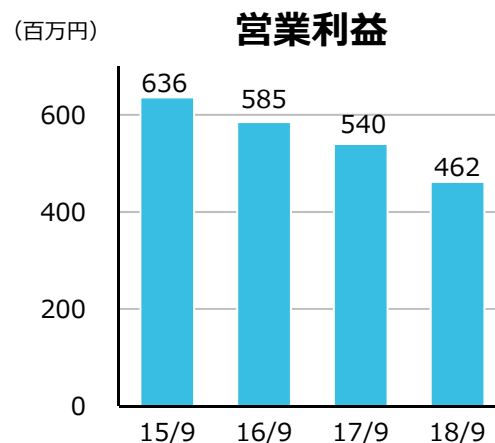
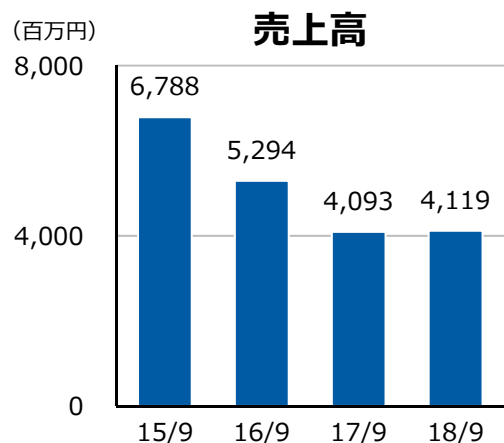
(金額単位：百万円)



	金額	前期比増減率
売上高	19,610	29.9%
営業利益	879	21.0%

- SCOA(米国)：高機能性樹脂等の化学品、自動車用部品・原材料、情報機器向け副資材の販売が堅調。
- 三洋物産貿易(上海)：ゴム・化学品は伸び悩むも、自動車内装用部品の販売が大幅に伸び、好調。
- Sanyo Trading Asia(タイ)：ゴム関連商品および自動車内装用部品の販売が好調

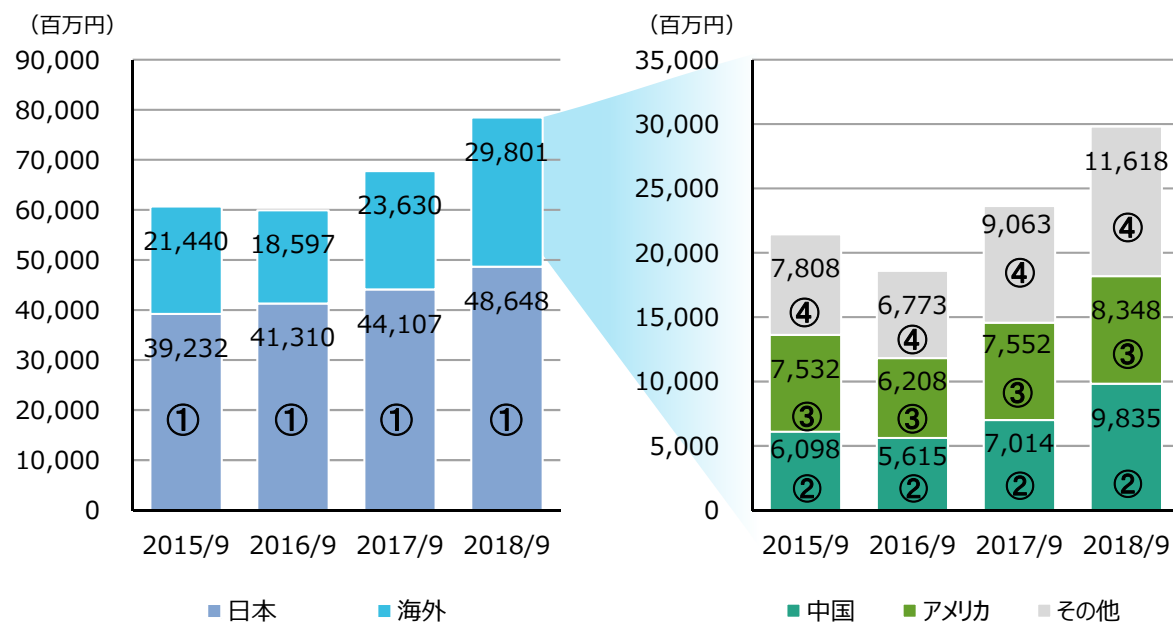
## 国内子会社



	金額	前期比増減率
売上高	4,119	0.6%
営業利益	462	△14.3%

- ケムインター：前期に引き続き、米国・韓国向けの半導体関連商材の輸出が好調に推移。
- コスモス商事：海洋・船舶分野での大型案件がなく、昨年好調であった地熱分野での機材販売・レンタル事業の低迷が響き、低調に終わる。

# 地域別(仕向地別) 売上推移



(金額単位：百万円)

2018年9月期 地域別売上高			
	金額	前期比 増減率	構成比
日本 ①	48,648	10.3%	62.1%
中国 ②	9,835	40.2%	12.5%
アメリカ ③	8,348	10.5%	10.6%
その他 ④	11,618	28.2%	14.8%
合計	78,450	15.8%	100.0%

## 変動要因

### 日本

- 自動車関連ビジネスの好調に加え、木質バイオマス関連機材が好調であった

### 中国

- 自動車内装部品が大変好調に推移

### アメリカ

- ゴム・化学品関連商材や自動車内装部品が好調が推移

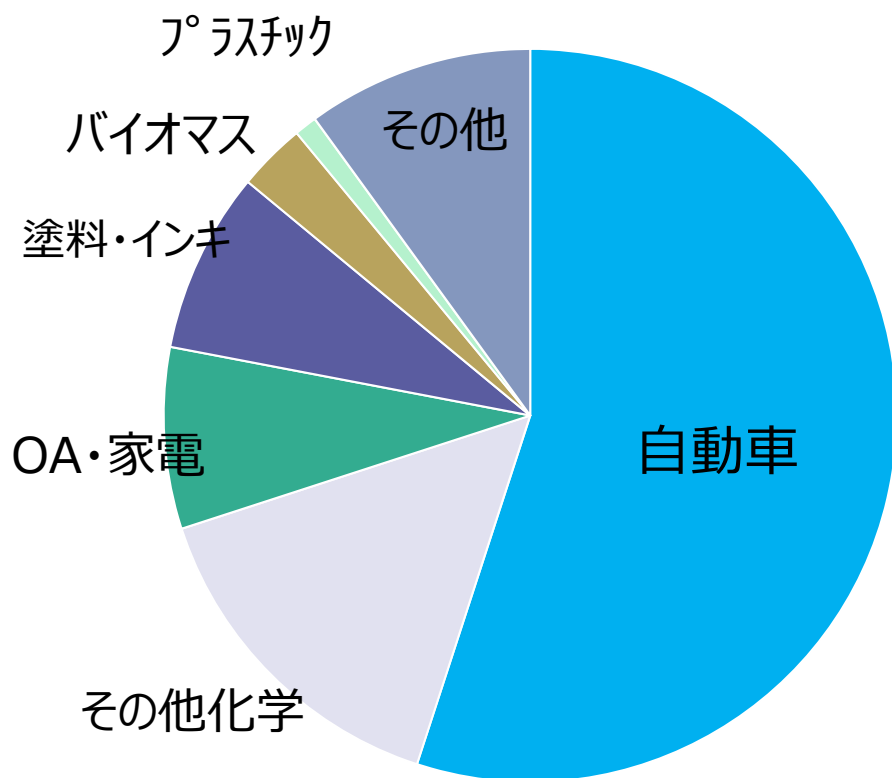
### その他

- ベトナム、タイなどのアセアン地区に加え、欧州向けも好調であった



# 業界別・販売先別・売上構成比(2018年9月期)

## 主な業界別 (単体ベース)



## 主な販売先 (単体ベース)

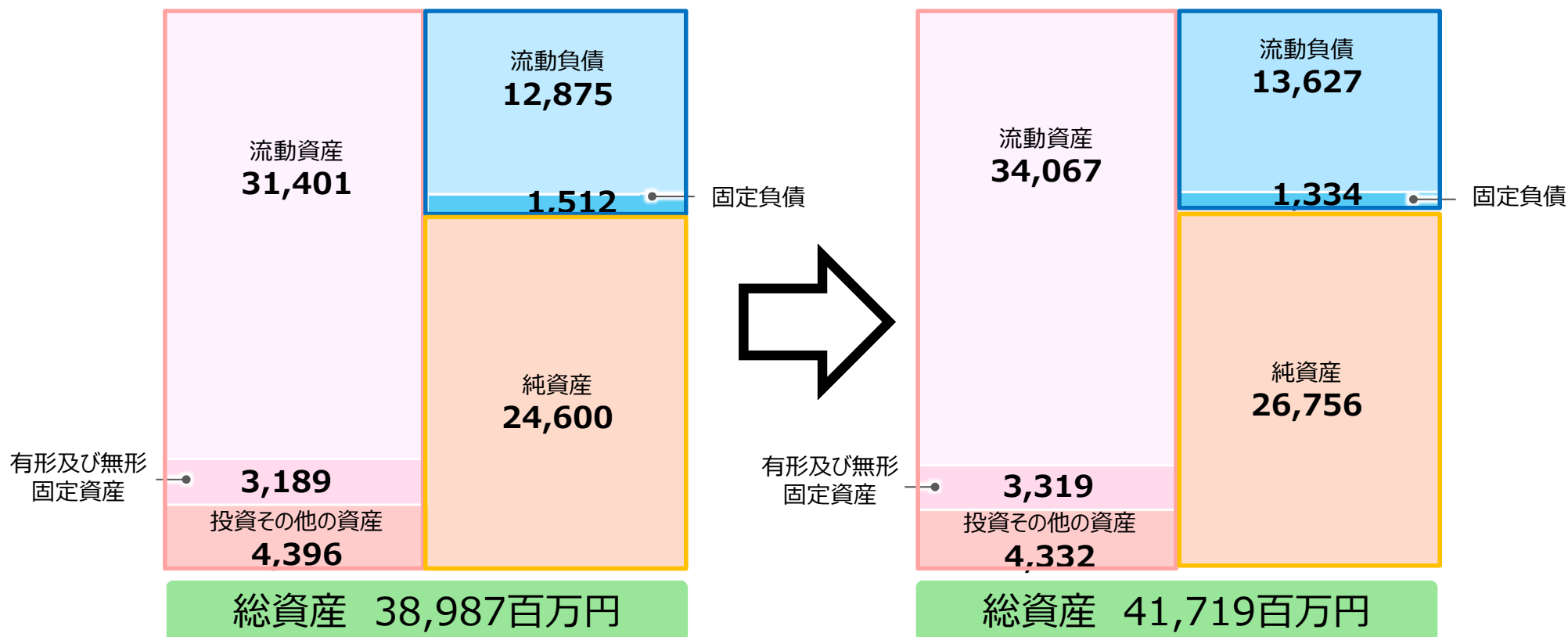
1	トヨタ紡織
2	デルタ工業
3	トヨタ自動車
4	日本発条
5	東洋シート
6	Gentherm(米)
7	シン・エナジー
8	KYB
9	住友理工
10	マツダ

# 2018年9月期 連結貸借対照表

2017年9月末

2018年9月末

(単位：百万円)



- 全体のバランスは変わらず、業績貢献での純資産増加が主。
- 資産は、商品等の積み増しと売上増による売上債権の増加で、流動資産が 2,666百万円増加
- 負債・純資産は、利益剰余金が業績好調に伴い 2,156百万円増加

# 2018年9月期 キャッシュ・フロー計算書

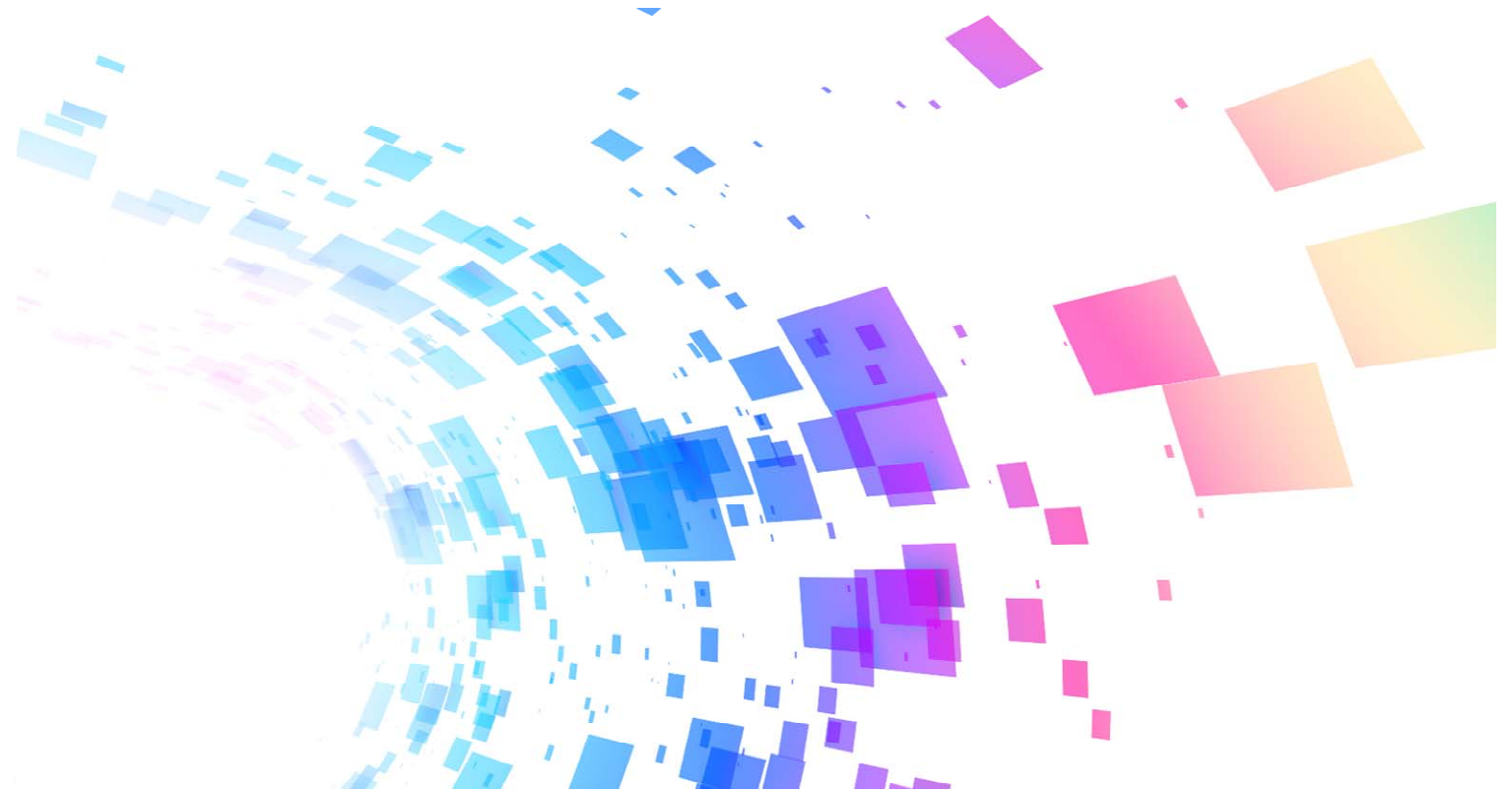
(金額単位:百万円)

	2018年9月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,583
投資活動によるキャッシュ・フロー	△408
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,297
現金および現金同等物の増減額	△133
現金および現金同等物の期首残高	2,601
現金および現金同等物の期末残高	2,468



# 第一部-②

## 2019年9月期 連結決算予想



# 2019年9月期 連結業績予想

- 堅調な自動車関連ビジネスの伸長に加え、バイオマス関連ビジネスの成長を見込む
- 海外でも、化成品・自動車分野における業績が堅調に推移すると予想
- 中期計画を超える利益水準を想定。引き続き、成長投資も実施。

(金額単位：百万円)

	2018年9月期			2019年9月期				
	金額	構成比 (%)	前期比増減率 (%)	金額	構成比 (%)	前期比増減率 (%)	中期計画値	計画比 (%)
売上高	78,450	100.0	15.8	<b>85,000</b>	<b>100.0</b>	<b>8.3</b>	<b>82,840</b>	<b>2.6</b>
売上総利益	13,410	17.1	9.3	<b>14,400</b>	<b>16.9</b>	<b>7.4</b>		
販売費及び一般管理費	8,147	10.4	11.2	<b>8,800</b>	<b>10.4</b>	<b>8.0</b>		
営業利益	5,263	6.7	6.6	<b>5,600</b>	<b>6.6</b>	<b>6.4</b>		
経常利益	5,575	7.1	5.8	<b>5,750</b>	<b>6.8</b>	<b>3.1</b>	<b>5,480</b>	<b>4.9</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	3,635	4.6	8.5	<b>3,900</b>	<b>4.6</b>	<b>7.3</b>		
E P S (円)	253.99	-	-	<b>272.43</b>	-	-		

# 2019年9月期 セグメント別売上高予想

- 化成品は、ゴム関連は原料高も販売量増、化学品関連はソート社合併効果、医薬関連で堅調となる見込み
- 機械資材は、自動車関連の伸長、バイオマスで複数の大型案件、コスモス復調で好調に推移する見込み
- 海外現地法人は、引き続きグローバル展開を加速、化成品と自動車関連で堅調に推移する見込み

※ 国内子会社セグメントは、2019年9月期より廃止。

(株)ケムインターを「化成品」へ、コスモス商事(株)を「機械資材」に振り分け。

国内子会社は事業部の管轄として、事業別区分とし、明瞭化する目的。

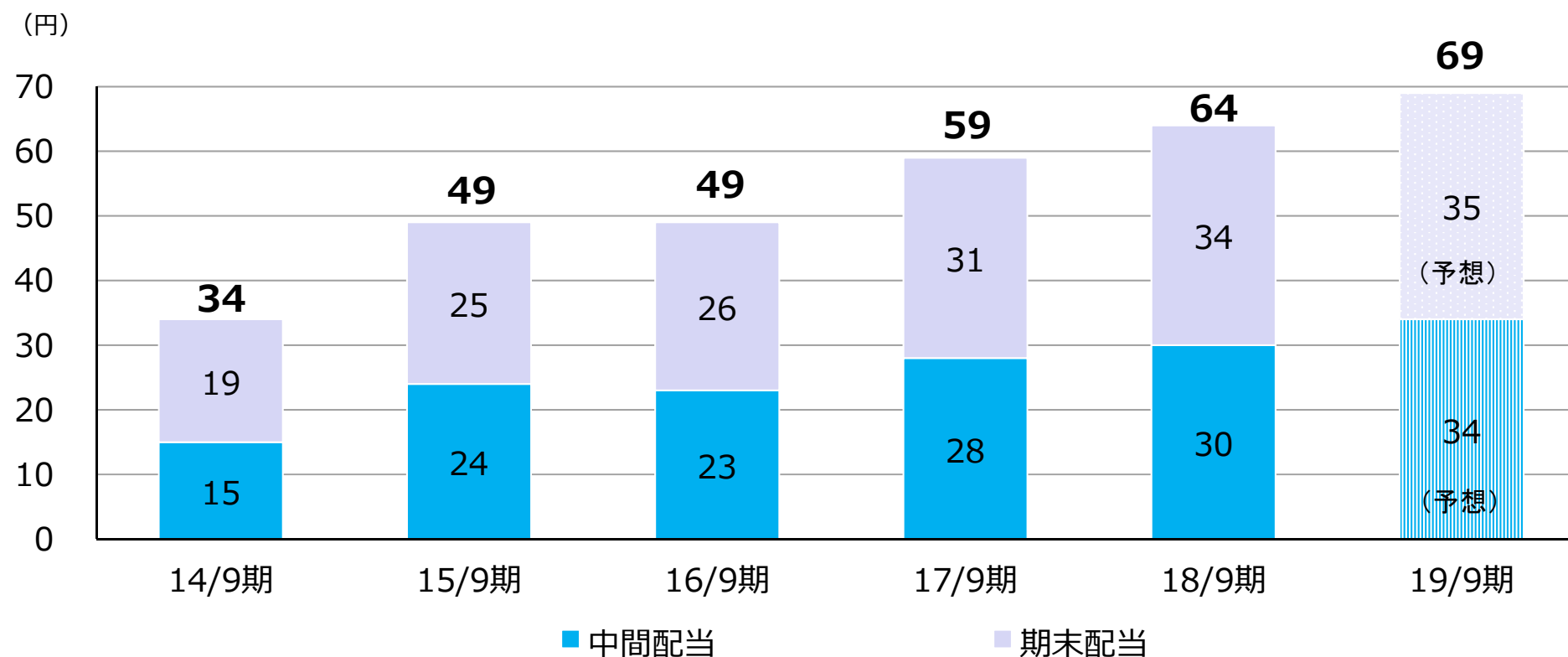
(金額単位：百万円)

セグメント別 売上高	実績【2018年9月期】						予想【2019年9月期】		
	旧セグメント			参考:新セグメント換算			新セグメント		
	金額	構成比 (%)	前期比 増減率 (%)	金額	構成比 (%)	前期比 増減率 (%)	金額	構成比 (%)	前期比 増減率 (%)
化成品	28,606	36.4	7.1	30,702	39.2		<b>32,600</b>	<b>38.4</b>	<b>6.2</b>
機械資材	25,932	33.7	20.0	27,955	35.6		<b>31,860</b>	<b>37.5</b>	<b>13.9</b>
海外現地法人	19,610	25.0	29.9	19,610	25.0		<b>20,140</b>	<b>24.1</b>	<b>4.5</b>
国内子会社	4,119	5.3	0.6						
その他	145	0.2	△34.6	145	0.2	△34.6	<b>55</b>	<b>0.1</b>	<b>△62.1</b>
合計(調整後)	78,450	100.0	15.8	78,450	100.0	15.8	<b>85,000</b>	<b>100.0</b>	<b>8.4</b>

# 株主還元

- 2019年9月期は、前期比で5円の増配予想
- 今後も、中長期的な「一株当たり配当額」の増額に重点を置き、長期安定的な株主還元を行っていく方針

	1株あたり配当金		
	2Q末予想	4Q末予想	合計予想
2019年9月期	34円	35円	69円





# 第二部 VISION2023 (新長期経営計画)



**最適解への挑戦！**

# VISION2020 (2015年11月公表) の振り返り

## 数値目標を3期早く達成

(億円、%)

数値目標	15/9	16/9	17/9	20/9 までに
連結 経常利益	41.1	42.7	52.7	50億円 以上
ROE	15.9	14.1	15.2	15% 以上
自己資本 比率	62.1	62.7	61.1	50% 以上

## VISION2020 3年間の実績

当社は、計画を着実に進捗させ、確実な成果を上げました

経営方針	達成度	実績・成果
スピード感のある業績拡大	○	定量目標を前倒しで達成
新規コアビジネスの育成	○	・自動車関連事業の伸長 ・バイオマス発電の大型案件実現
グローバル展開	○	・海外セグメントの伸長 ・現地体制の強化・STAハブ化

証券市場の一定評価も頂き、JPX日経中小型指数に選定頂きました



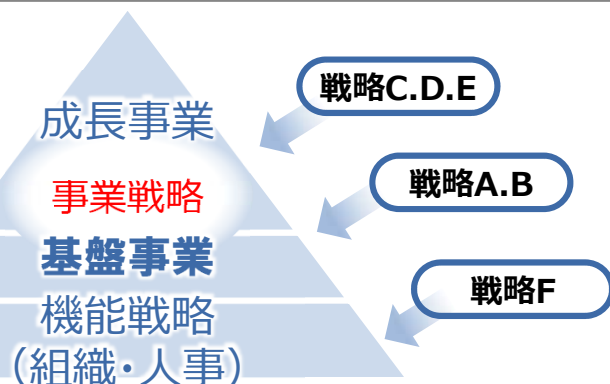
しかし、今後の方向性・ステージUPとしての対応が必要に

今後の課題	重要度	対応
次なる方向性の必要性	○	新たなる目標の設定
全社共通認識でのビジョン	○	新経営理念等の共通視座 要
自社歴におけるステージ見直し	○	ステージUP/マイルストーン 要



## 新たなるビジョン・長期計画が必要

事業 戦略	基盤 事業	戦略A : 既存コアビジネスの深化
		戦略B : ビジネスポートフォリオの明確化
	成長 事業	戦略C : 新規ビジネスのプロジェクト
		戦略D : グローバル展開の加速
		戦略E : 新規投資案件の推進
機能戦略	戦略F : 国内外の組織の強化・最適化	



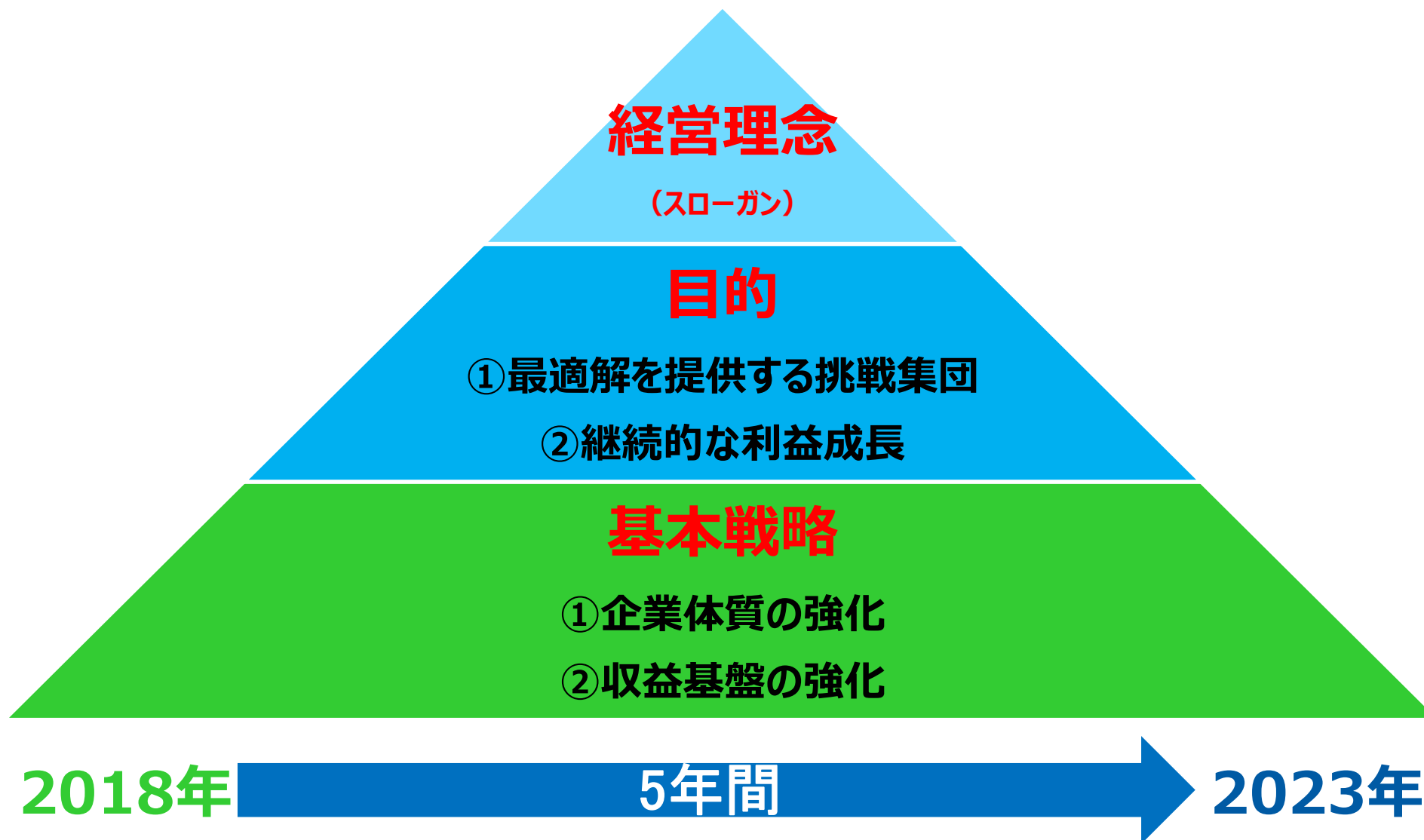
# TVCM (イメージスライド)



■ どんない会社 ⇒ 社会 にしたい?  
(30秒ver)



放送局/ 提供番組	放送時間	提供期間	放送エリア
TBS/TBS系列 『あさチャン!』	毎週火曜日 6:00~7:00	2018年10月~ 2019年 3月	関東エリア



## < 経営理念 再構築の目的 >

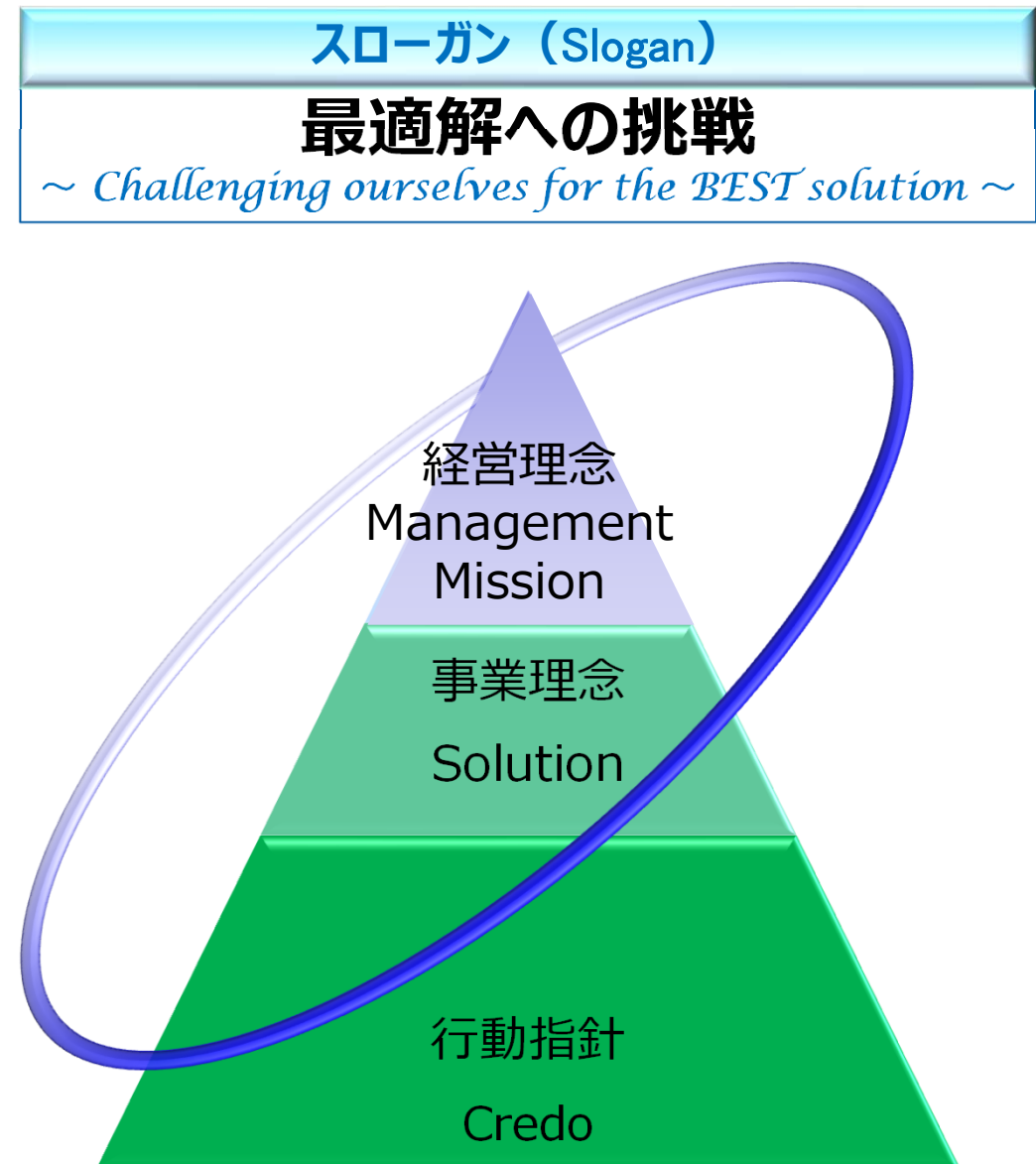
- \*「経営理念」の位置づけ再考
- \*「新長期経営計画」の起点
- \*30年後(100周年)を見据えた視点

## <スローガンロゴ>



- ◆チャレンジする能動的・積極的な姿勢、向上心を表す
- ◆スローガンのもと、挑戦し続ける「未来」を表現
- ◆コーポレートカラーをベースにし、会社ロゴと調和

## 理念体系図



## 各事業部門からみたドメイン（攻めるべき事業領域）

### 産業資材事業部

社会に変革をもたらす先端技術を、機動力と知見、ジャスト・イン・タイムの体制を通じ顧客へ展開し、**モビリティ分野を中心に**社会の発展に寄与する。



### ゴム事業部

長きにわたって蓄積した信用と実績を基盤とし、パイオニア精神とタイムリーなサービスで**世界のゴム産業**発展に寄与する。

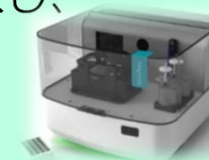
### 化学品事業部

幅広い技術知識とニッチなスペシャルティ商材の取扱いで最適なソリューションを提供し、かつ積極的な資本投下を行うことで、**ファインケミカル分野**の発展に寄与する。



### 機械・環境事業部

粉体加工、木質バイオマスの分野で海外の優れた技術と設備を発掘・提供し、**食の安全と再生可能エネルギーの推進**に寄与する。



### 科学機器事業部

科学、医療、産業の発展に寄与する機器の提供を通じて、**技術の進歩と人々の健康**に貢献する。

## VISION2023の基本戦略

「企業体質の強化」と「収益基盤の強化」の2つの基本方針及びその下に立案された7つの戦略によって構成される

企業体質の強化	収益基盤の強化
A.最適解への挑戦	D.事業領域の深化
B.企業基盤の強化	E.新規ビジネスの開拓
C.人材への投資	F.グローバル展開の加速
	G.新規投資案件の推進

## VISION2023 の達成目標

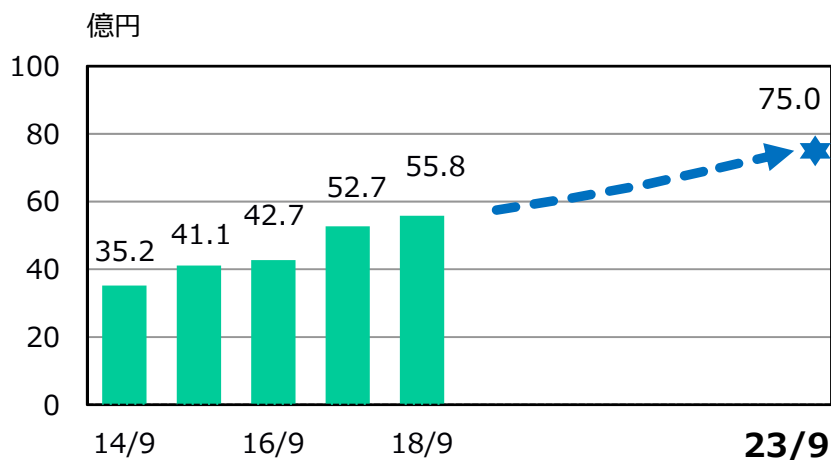
項目	目標
連結経常利益	75億円
ROE	15%
海外拠点成長率（売上高、年率）	10%

計画最終年度である2023年9月期の数値目標は、継続的な利益成長のため、連結経常利益 75億円 と ROE 15%、グローバル展開の加速ため、海外成長率（年率10%）と致しました。

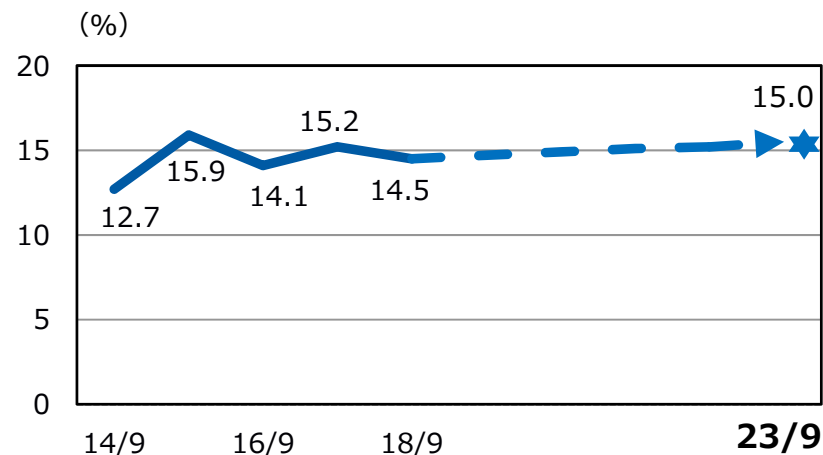


## 過去の実績と VISION2023 の達成目標

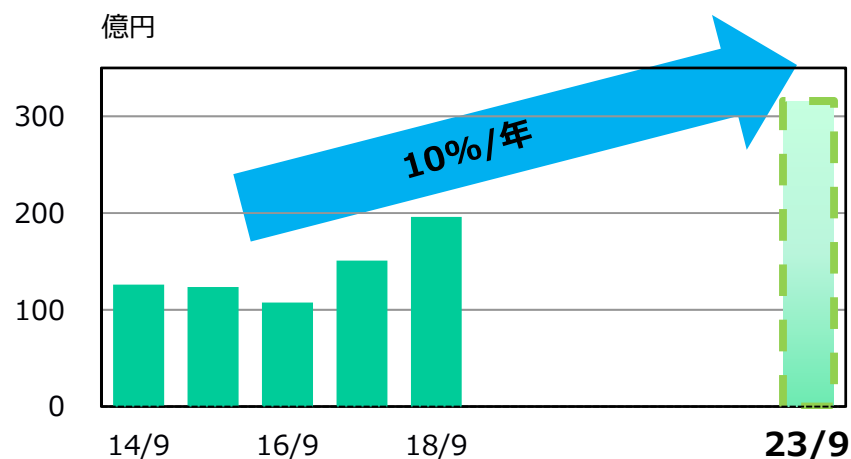
### 連結経常利益



### 自己資本利益率 (ROE)



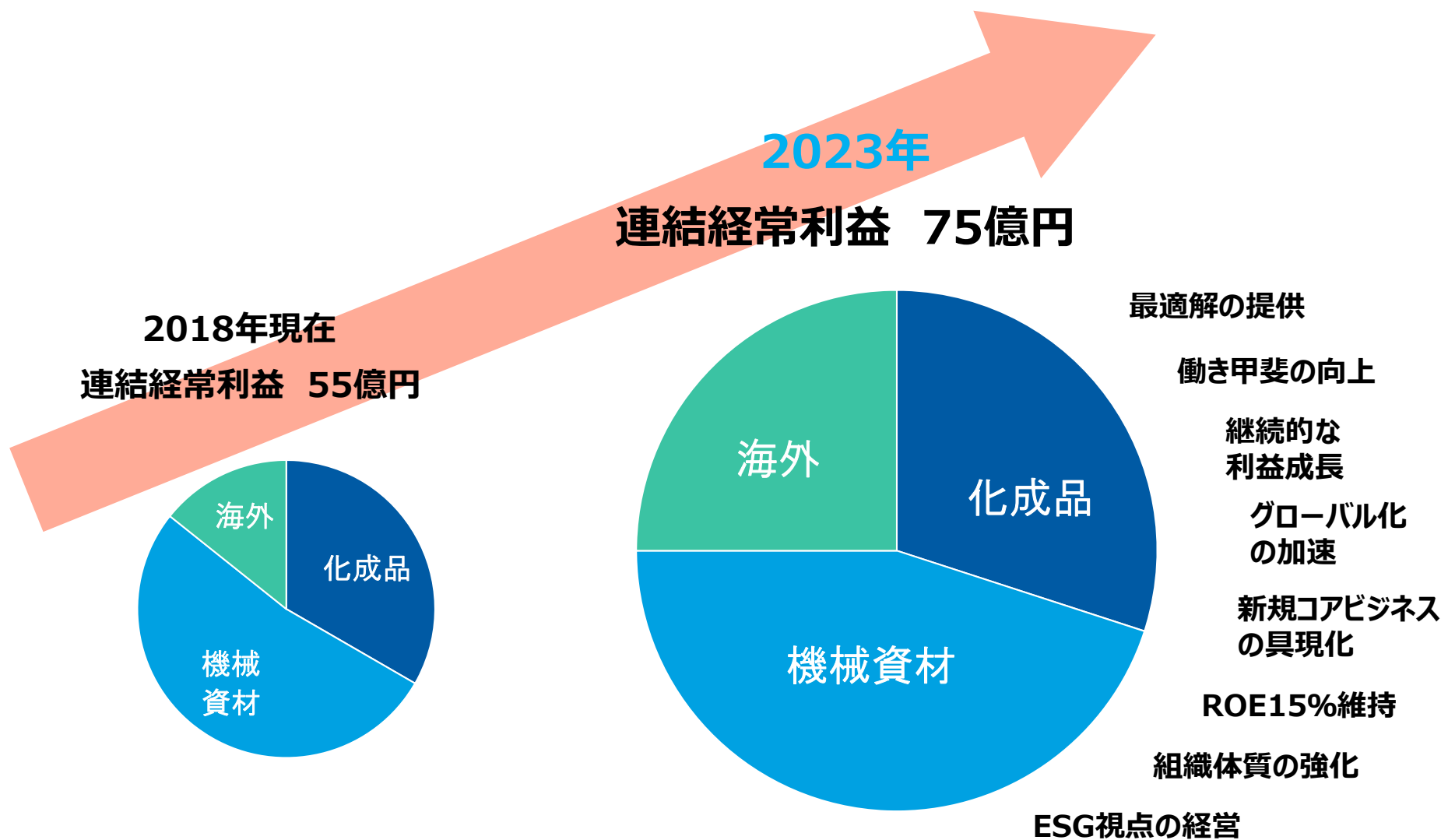
### 海外拠点成長率(売上)



## VISION2023の 目的と時間軸の関係・展開イメージ



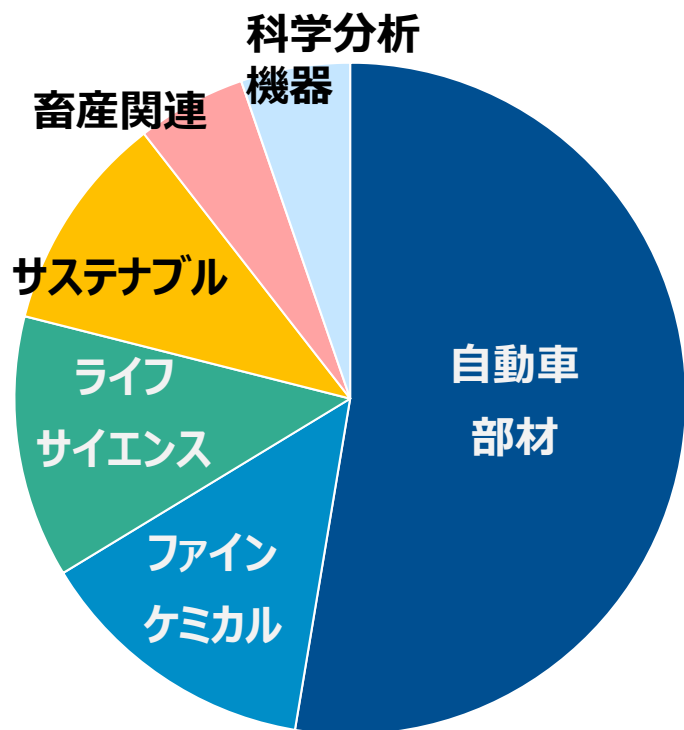
## ありたい姿-セグメント別



## ありたい姿-ドメイン別

2023年

連結経常利益 75億円



### 戦略D:事業領域の深化

当社注力領域 (ドメイン)	背景	特定分野 (ニッチ分野)	担当事業部 /子会社
自動車部材	自動車内装材を中心に日系自動車メーカーに快適な移動空間を創造する	内装材	産業資材
		ゴム部材	ゴム
ファインケミカル	高機能素材、添加剤を中心に、付加価値の高いケミカルを取扱い、産業の発展に寄与する	高機能化学品	化学品
		ゴム添加剤	ゴム
ライフサイエンス	医療機器、医薬中間体、又ヘルスケア商材を通じて人の健康に寄与する	医薬中間体	化学品
		医療機器	日本ルフト
		ゴム部材	ゴム
サステナブル (環境対応)	木質バイオマスや地熱発電を通じて、地産地消、日本の再生可能エネルギー事情を改善する	木質バイオマス	機械環境
		地熱発電	コスモス商事
畜産関連	日本の食文化、食の安全、供給に寄与する	ペレットミル機械	機械環境
		畜産部材	化学品
科学分析機器	日本の技術研究の発展に寄与すべく最新の測定、分析機器を取り扱う	先端計測・分析	科学機器

## 今後の成長の芽 ① 木質バイオマス

### <当社木質バイオマスビジネスの系譜>

- ・2014年9月期より、取り扱いを本格的に開始
- ・国内の未利用間伐材等由来の木質ペレットを原料としたバイオマス発電の普及を志向
- ・木質ペレット製造、ガス化熱電併給の両方の機器に精通。特にペレット製造装置(CPM社)は60年余の取り扱い実績

### <今後の見通しと取り組む意義>

- ・**国産**の未利用間伐材等由来のFIT価格は、最も高水準(2020年迄確定)、プロジェクト(PJ)の**採算性が高く**、引き合いを受けやすい
- ・国家**エネルギー方針において重点項目**(現行1%未満 ⇒ 目標4%)となっており、今後の市場伸長が見込まれる
- ・**ESGの観点**からも、環境(カーボンニュートラル)・地域貢献(未利用材活用)と事業性が成立する

(北海道 下川町PJ)



(愛媛県 内子町PJ)



2018.9期末現在

- ・稼働 14台、
- ・受注 18台
- ・交渉中 多数

2018.9期

- ・大日本コンサルタント株式会社と合弁SPC設立、PJ運営にも参画

2018.9期 2Q

- ・宮崎県串間市で大型PJ完了・稼働開始(10台)



(宮崎県 串間市PJ)

2014.9期

- ・ガス化熱電併給装置  
取り扱い開始

2016.9期

- ・群馬県上野村で  
国内1号機が稼働

2017.9期 2Q

- ・岐阜県高山市で  
2号機が稼働

## 今後の成長の芽-②自動車関連

### <当社自動車ビジネスの強み>

- ・自動車メーカー及びTier1との深い関係で、開発段階からデザイン提案、性能開発・改良に参加
- ・受注→開発→試作→立ち上げ→量産管理→旧型補給品対応 まで一貫して対応する体制
- ・得意とする内装部品(主にシート廻り)は、EV化や自動運転化が追い風となる。

### <成長・注力分野>

- ・既存商材を主軸に、各日系メーカーの新取引先及び新生産拠点(海外含む)へ売り込み拡大
- ・大型X線CTスキャンによる電動車の3Dモデル、VR/AR技術を活用して、顧客のバーチャル・エンジニアリング支援ツールを提供 (新規ビジネス)
- ・モビリティ分野での移動環境の快適化・高付加価値化の流れを踏まえた商品開発

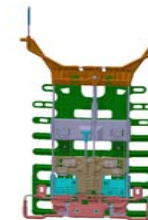
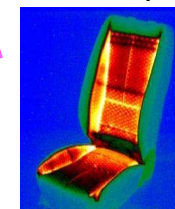
### 【主力商材・開発分野】

レザー素材/開発  
Ex.軽量レザー等

シートヒーター/空調



SBR  
(シートベルトリマインダー)



ランバーサポート

一貫したサポート対応体制



+ 新規性、付加価値の高い技術で顧客の車両開発まで支援



CTスキャンによる3Dモデル



VR技術で解析、車両開発への活用

## 今後の成長の芽-③海外

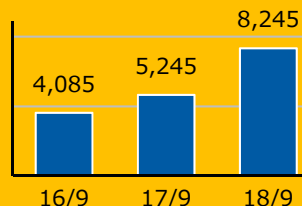
### ◆中国；三洋物産貿易(上海)

#### 地域拡大

- 中華圏のネットワークを活用
  - 上海・天津・広州+香港
- アセアン他海外拠点との取引拡大

売上高平均成長率

+42%



- 青色は連結対象
- 2012年以前に設立
- 2013年に設立
- 2014年に設立
- 2015年に設立
- 2017年に設立

### ◆北米；Sanyo Corporation of America

#### 地域拡大

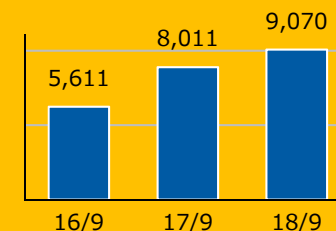
- メキシコ拠点拡張

#### 商材拡大

- 高機能性フィルム
- 吸水性ポリマー

売上高平均成長率

+27%



### ◆ASEAN；Sanyo Trading Asia Co., Ltd.

#### 地域拡大

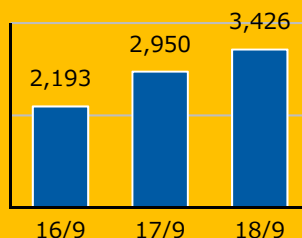
- 中国、アセアン・インドへ

#### 商材拡大

- 自動車内装部品伸長 (モーターやランバーサポートなど)
- 化学品新規商材の拡売 (紫外線吸収剤、光開始剤など)

売上高平均成長率

+25%

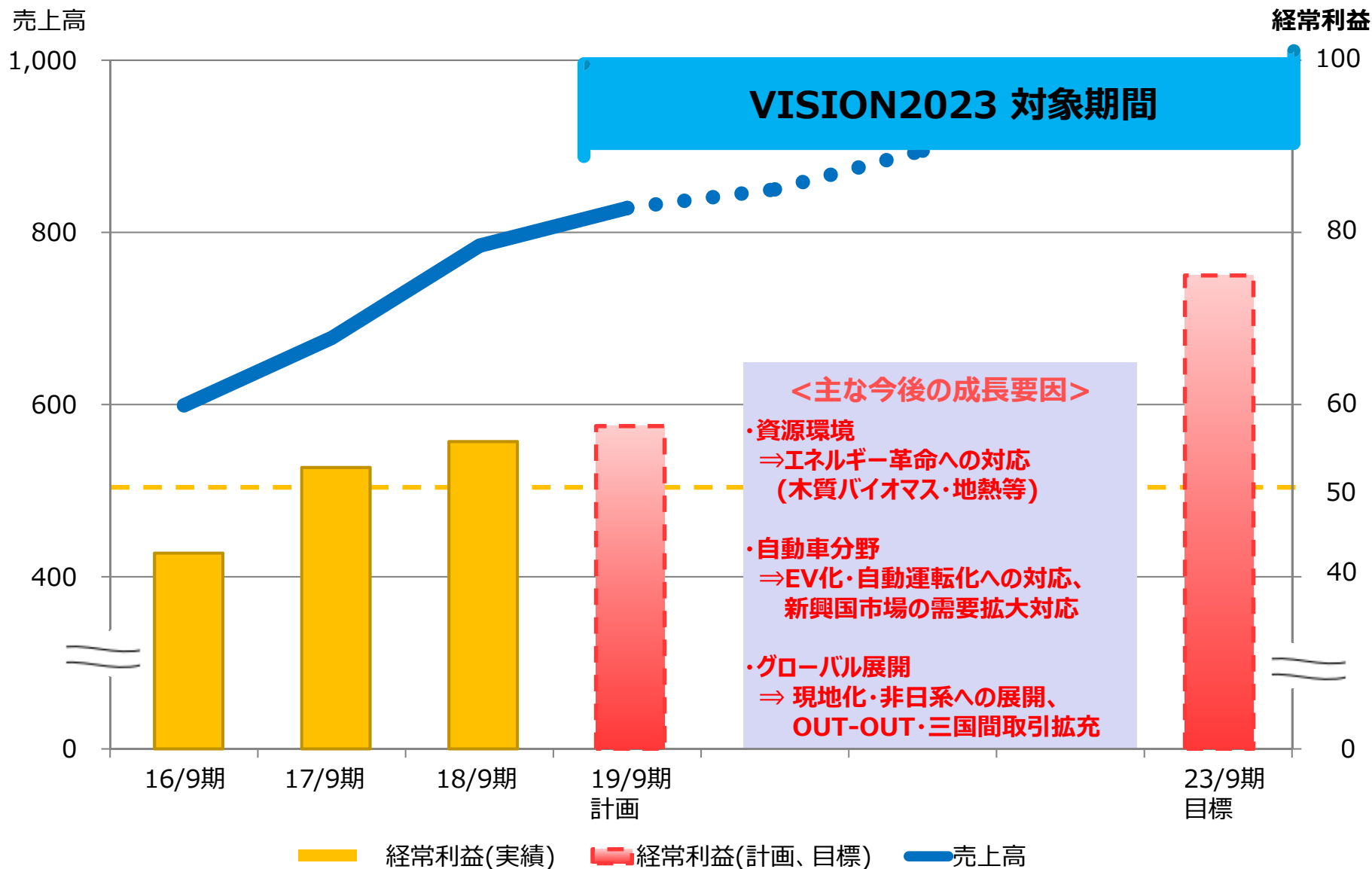


### ＜海外展開のポイント＞

- 自動車産業で日系企業の進出が続くアセアン+インド、中国、北中米の3拠点を主軸に海外展開を促進
- 2017年9月期からの「グローバル展開の加速」による施策 (Ex. 「本社事業部主導の展開」) が奏功、加えて海外子会社間のグローバル連携促進、横展開加速

# 実績値推移と今後の方向性

単位:億円





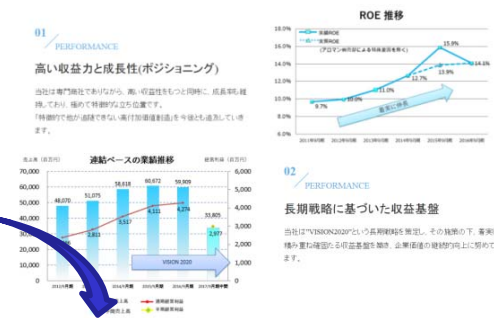
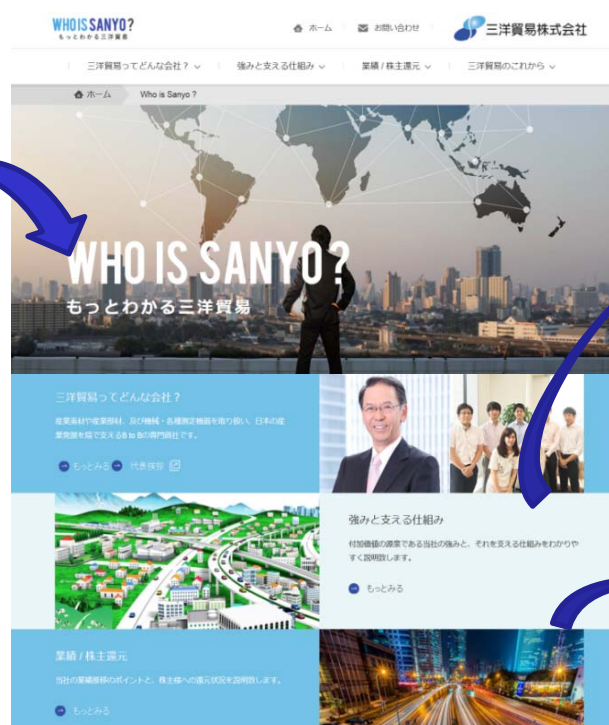
# <トピックス> 弊社会社紹介ページ更新のご案内

弊社の事業内容や特徴等を、より一層投資家の皆様にご理解いただけるよう、会社内容紹介ページとして「Who is SANYO?」を弊社HPに開設しております。是非ともご覧くださいませようお願い申し上げます。  
 URL : <http://www.sanyo-trading.co.jp/guide/>

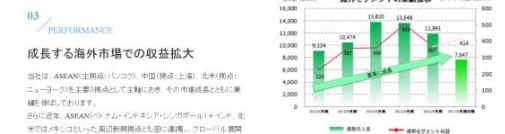
## < 弊社HP Link >



## < 会社内容紹介ページ ; 「Who is SANYO?」 >



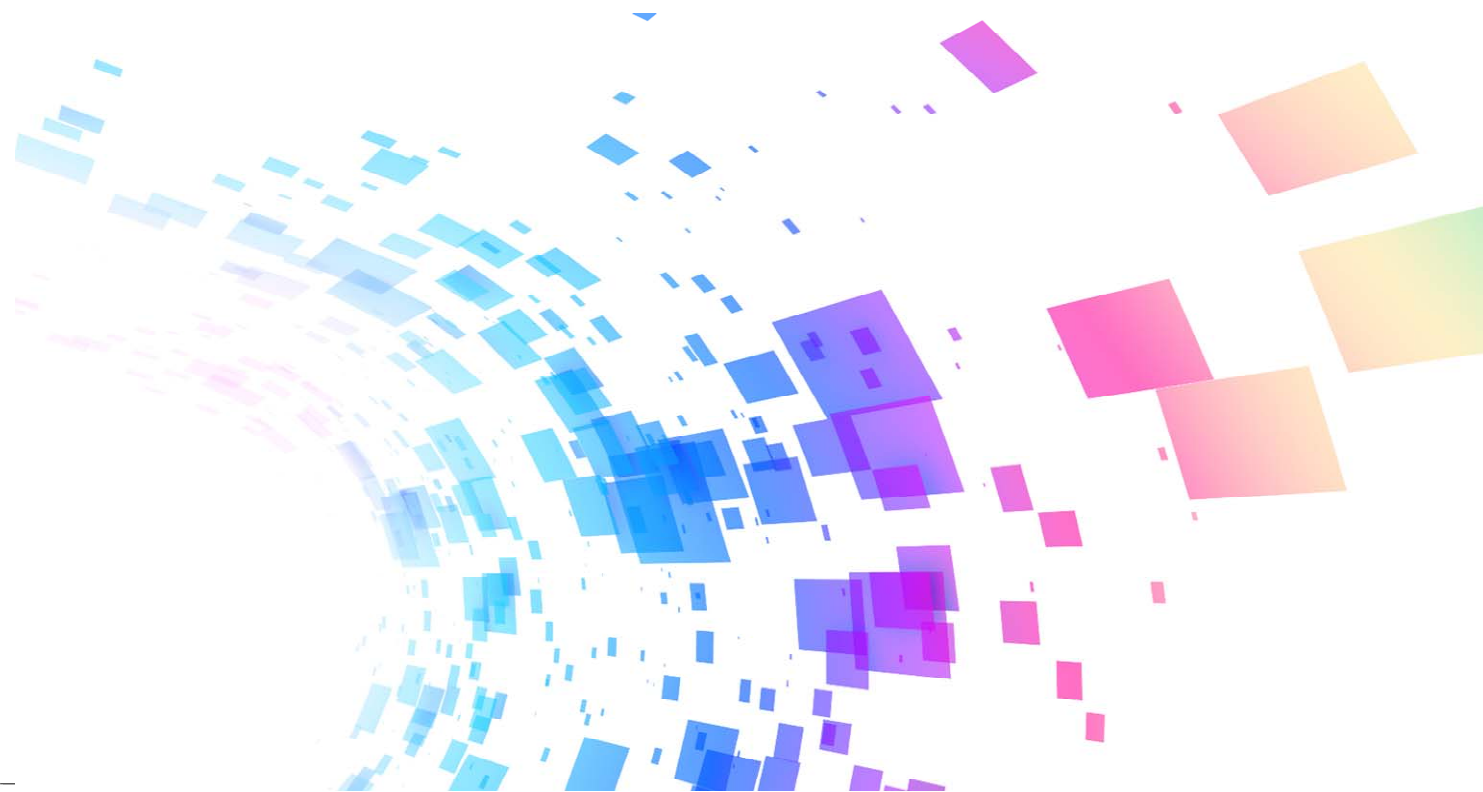
## 業績紹介



# APPENDIX

## 会社説明資料

---



# 1. 会社概要

会社名	三洋貿易株式会社
英文社名	SANYO TRADING CO., LTD.
設立	1947年5月
代表取締役社長	増本 正明
本社所在地	東京都千代田区神田錦町2丁目11番地
事業内容	ゴム、化学品、機械機器、科学機器、自動車部品その他各種商品の輸出入、国内販売を行う市場ニーズの高い商品を取り扱い、技術的サポートを得意とする
拠点	東京、大阪、名古屋、広島、ニューヨーク、デトロイト、イラプアト(メキシコ)、上海、広州、天津、香港、バンコク、ホーチミン、ハノイ、グルガオン(インド)、ジャカルタ、シンガポール、デュッセルドルフ
売上高	78,450百万円 (2018年9月期、連結ベース)
経常利益	5,575百万円 (2018年9月期、連結ベース)
親株主帰属当期純利益	3,635百万円 (2018年9月期、連結ベース)
従業員数	349人 (2018年9月末、連結ベース)

## 2. 沿革

1947年 5月	旧三井物産の解体に伴い、同社神戸支店有志により神戸を本店として資本金195千円をもって三洋貿易株式会社を設立	2012年 2月	三洋物産貿易（香港）有限公司を設立
1948年 5月	東京支店を設置	10月	東京証券取引所 市場第2部に上場
1952年 12月	大阪支店を設置	2013年 10月	メキシコにSun Phoenix Mexico S.A. de C.Vを設立
1954年 1月	ニューヨーク駐在員事務所を開設(1961年2月 Sanyo Corporation of Americaに改組)	10月	東京証券取引所 市場第1部指定
1958年 8月	名古屋支店を設置	2014年 8月	インドネシアにPT. Sanyo Trading Indonesiaを設立
1961年 11月	本店を神戸から東京に移転	2015年 6月	Bestrade Precision Singapore社を子会社化。 7月 Singapore Sanyo Trading Pte. Ltd. に社名変更
1988年 6月	バンコク駐在員事務所を開設	9月	株式会社ケムインターがコムスタージャパン株式会社を子会社化
1990年 9月	ハノイ駐在員事務所を開設	10月	タイ に Sanyo Trading(Thailand) Co., Ltd.を設立
1992年 10月	ホーチミン駐在員事務所を開設(2010年2月 Sanyo Trading(Viet Nam)Co., Ltd.に改組)	2016年 2月	株式会社ソートを子会社化(2018年4月 吸収合併)
2002年 8月	上海駐在員事務所を開設	7月	日本ルフト株式会社を子会社化
10月	ニューリー・インスツルメンツ株式会社を吸収合併	2017年 2月	古江サイエンス株式会社を孫会社化（2017年9月三洋テクノス株式会社と合併。三洋古江サイエンス株式会社に商号変更）
2003年 6月	バンコク駐在員事務所をSan-Thap International Co.,Ltd.社へ業務移管	3月	ドイツ に Sanyo Trading Co., Ltd. Dusseldorf Representative Officeを設立
2004年 1月	コスモス商事株式会社を子会社化	6月	日本フリーマン株式会社を子会社化
10月	株式会社東知との共同出資にて、三洋東知（上海）橡膠有限公司を設立	8月	広島事務所を開設
2006年 4月	三洋テクノス株式会社を設立	10月	アズロ株式会社を子会社化
10月	株式会社ケムインターに資本参加し、発行済株式の68.52%を取得（現在 76.85%）	2018年 2月	San-Thap International Co., Ltd.を完全子会社化（2018年6月 Sanyo Trading Asia Co., Ltd.に商号変更）
2010年 10月	インド駐在員事務所(ニューデリー)開設（2011年12月 Sanyo Trading India Private Ltd.に改組）		

### 3. 事業拠点

#### 化成品セグメント

ゴム事業部	化学品事業部
三洋東知（上海） 橡胶 三洋物産貿易（香港）	アズロ(株)

#### 機械資材セグメント

機械・環境事業部	産業資材事業部	科学機器事業部
三洋機械工業(株)	日本フリーマン(株)	三洋古江サイエンス(株) 日本ルフト(株)

#### 国内子会社セグメント

コスモス商事(株)	(株)ケムインター
-----------	-----------

#### 駐在員事務所

##### 欧州



#### 海外現地法人セグメント

##### 北米 中南米

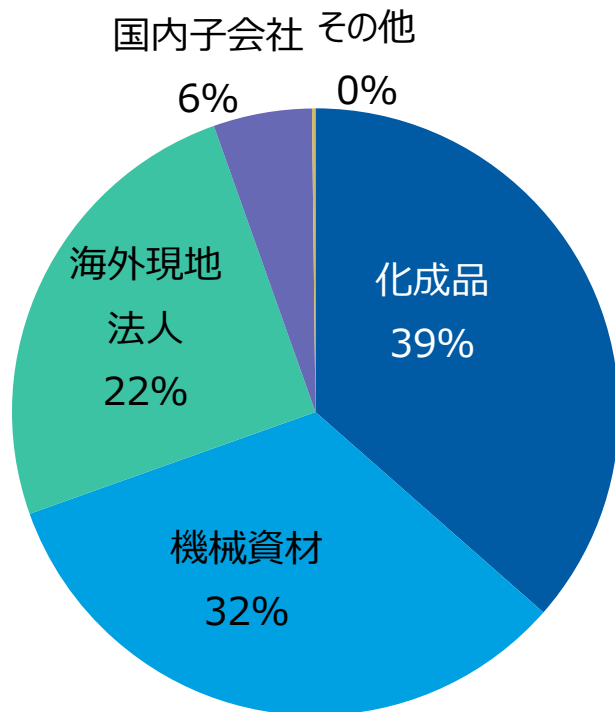


##### アジア アセアン

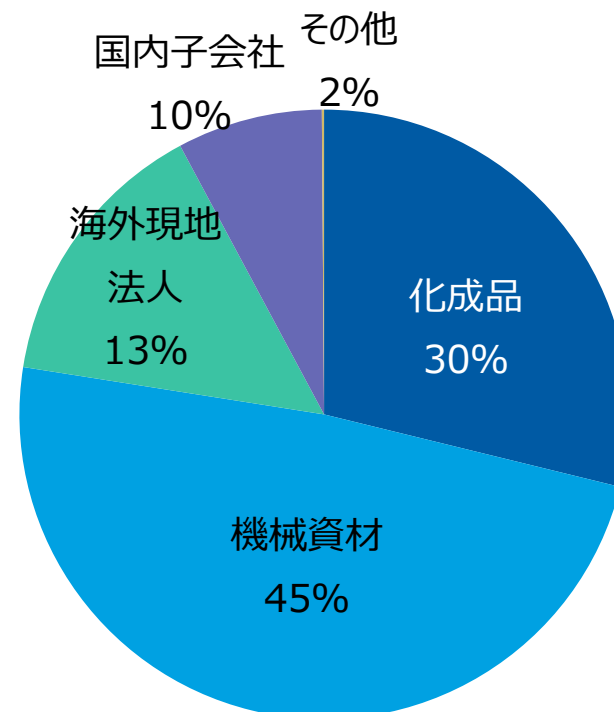


# 4. 事業ポートフォリオ

## 売上高



## 営業利益



セグメント別売上実績				
2018年9月期				
百万円				
化成品	機械資材	海外現地法人	国内子会社	その他
28,606	25,932	19,610	4,119	145

セグメント別営業利益実績				
2018年9月期				
百万円				
化成品	機械資材	海外現地法人	国内子会社	その他
1,726	2,913	879	462	7

(注) 調整前

## 5. 各事業の強みと特徴① 化成品セグメント 1/2

ゴム事業部	
主要取扱商材	合成ゴム（ブチルゴム、NBR、シリコンゴム等）、 ゴム補強・充填材（特殊クレー、難燃剤等）、 可塑剤、熱可塑性エラストマー・樹脂等
主要販売先業界	自動車、情報機器等
主要用途	タイヤ、自動車部品（内外装部品、防振ゴム、 ホース、オイルシール等）、OA部品（各種 ロール等）、医療関連商品等
注力分野	海外連携

### 特徴・強み

- 1952年 日本で最初に合成ゴムを輸入。ゴム産業に係る幅広い商品を取扱う
- 取引先は国内タイヤ、工業用ゴム製品の主要メーカーをほぼ網羅
- 合成ゴム、充填剤等の一般原材料のみならず、特殊ポリマー、配合剤等、多彩な商品を取扱う
- 技術系営業員によるユーザーへの技術支援、共同開発も可能
- 安定供給を維持するためのロジスティクス分野でも実績と経験を保有
- 顧客の海外進出にも対応可能なネットワークを構築

主な仕入先	主な取扱商品	特徴
ARLANXEO/Lanxess	各種合成ゴム、可塑剤	世界No.1の合成ゴム総合メーカー、幅広い製品群を安定供給
KaMin	特殊クレー	タイヤ、工業用ゴム部品で性能向上と低コスト化を両立させる戦略商品
東レ・ダウコーニング	シリコンゴム	耐熱性に優れ、OAロール・自動車部品・医療用部品等幅広い用途

### 取扱い商材例とその最終製品例



### 各製造メーカー



## 5. 各事業の強みと特徴② 化成品セグメント 2/2

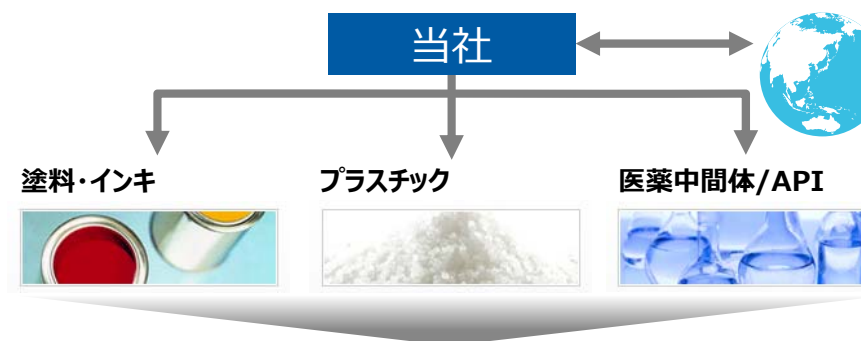
### 化学品事業部

主要取扱商材	塗料・インキ用添加剤等、各種樹脂、高機能性フィルム、医薬中間体/API、電子材料、接着機器等
主要販売先業界	化学、建材、自動車、電子機器 等
主要用途	塗料、インキ、プラスチック、フィルム、医薬等
注力分野	医薬中間体/API、高機能性フィルム

### 特徴・強み

- 高付加価値のファインケミカルを取り扱う
- 医薬中間体/API、太陽電池関連、環境対応型商品など、医薬、エネルギー、環境向けにライフサイエンス商品も展開
- 優れたロジスティックノウハウでの物流サービス、在庫販売及びきめ細やかな技術サービスを提供
- 海外仕入先にてトレーニングを受けた営業員による高付加価値商品の提案、用途開発ならびに技術支援

### 取扱い商材例とその最終製品例



### 各製造メーカー



主な仕入先	主な取扱商品	特徴
Shamrock	各種ワックス	インキ・塗料用の高性能ワックス
東洋紡	各種フィルム	ナイロン、PET他高機能フィルムの幅広い品揃え



## 5. 各事業の強みと特徴③ 機械資材セグメント 1/3

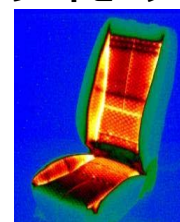
産業資材事業部	
主要取扱商材	自動車シート用本革、シートヒーター、ランバーサポート、センサー等
主要販売先業界	自動車関連
主要用途	自動車用内装部品（主として高級車）
注力分野	エアバッグ用センシングデバイス、空調シート（温・冷風）

### 特徴・強み

- 新車の開発段階からデザインの提案や性能開発・改良に参加
- 受注→開発→立ち上げ→量産管理→旧型補給品対応 まで一貫して対応する体制
- 自動車メーカー及びTier1との深い関係構築
- 皮革シートの厳しい納入基準をクリア
- 契約獲得できればその生産期間は売上が見通しやすい

### 取扱い商材例

シートヒーター



ランバーサポート



レザーシート



シートセンサー

シート用モーター

主な仕入先	主な取扱商品	特徴
GST/Seton Autoleather	自動車用の本革	デザインから自動車メーカーと共同開発
Gentherm	シートヒーター	カーボンファイバー仕様の市場を独占
L&P Group	ランバーサポート	高い技術力で世界市場で大きなシェアをもつ

# 5. 各事業の強みと特徴④ 機械資材セグメント 2/3

機械・環境事業部	
主要取扱商材	ペレットミルおよび関連部品、木質バイオマス関連機器
主要販売先業界	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ペレットミル；飼料、エネルギー、リサイクル</li> <li>● 木質バイオマス関連機器；地方公共団体 等</li> </ul>
主要用途	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ペレットミル；飼料製造、固形燃料（ペレット）製造</li> <li>● 木質バイオマス関連機器；電力、熱供給</li> </ul>
注力分野	木質ペレットガス化熱電併給装置

## 取扱い商材例



CPM社 ペレットミル



各種ペレット

## 特徴・強み

### CPM社製ペレットミル

- 日本総代理店として60年以上の歴史
- 飼料用ペレットミルのシェアは8割以上
- メンテナンス部隊による保守点検
- 自動制御装置のソフト開発およびカスタマイズ化で他社の輸入品と差別化

### 木質バイオマス関連機器

- 独ブルクハルト社製。木質ペレットとのシナジー効果を期待
- 再生エネルギー利用、地域振興の政策意義



ブルクハルト社 熱電併給ユニット



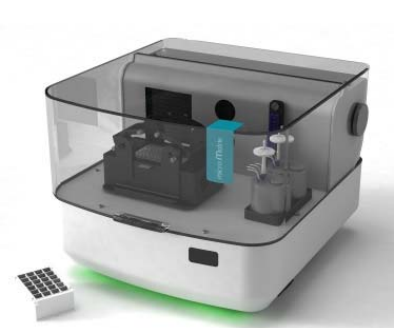
ブルクハルト社 ガス化ユニット

主な仕入先	主な取扱商品	特徴
CPM	ペレットミル	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 飼料、餌料においては固形化により自動給餌が可能</li> <li>● 保管と輸送費の節減が可能</li> </ul>
ブルクハルト	木質ペレットガス化熱電併給装置	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 再生可能エネルギーとして、熱電併給が可能</li> </ul>

## 5. 各事業の強みと特徴⑤ 機械資材セグメント 3/3

科学機器事業部	
主要取扱商材	各種検査・試験機器（摩擦試験機、金属分析器、ガス分析計、耐候性試験機、バイオセンサー、表面物性試験機等）・医療機器
主要販売先業界	国立研究所、防衛省、大学、石油、化学、自動車、製薬等
主要用途	研究開発、品質管理、判別、危機管理
注力分野	バイオリアクター、医療機器

### 取扱い商材例



バイオリアクター



ガス分析装置



耐候性試験機



摩耗粉分析装置

### 特徴・強み

- 特定の分野ではなく、公官庁、民間企業とも幅広い分野に顧客を有する
- 海外の先端技術を有する多くのメーカーの優れた商品を国内に輸入、販売を行う
- 保守サービス専門子会社を保有している
- 自社ブランド商品の開発と輸入機器のカスタマイズを得意とする








主な仕入先	主な取扱商品	主な仕入先	主な取扱商品
FALEX	摩擦試験機	Q-LAB	耐候性試験機
SPECTRO INC.	潤滑油劣化診断機器	PICARRO	温室効果ガス・同位体比分析計
PRESENS	非破壊酸素濃度計	ASI	二次イオン質量分析計

# 5. 各事業の強みと特徴⑥ 海外現地法人、国内子会社

## 海外現地法人

北米地域	Sanyo Corporation of America (米国)	化学品、ゴム原料、自動車関連 などの取扱い
アジア地域	三洋物産貿易 (上海) 有限公司 (中国)	自動車関連、化学品、ゴム原料 などの取扱い
	Sanyo Trading Asia Co., Ltd. (タイ)	
	Sanyo Trading(Viet Nam)Co., Ltd. (ベトナム)	

## 国内子会社

<p>コスモス商事</p>	<p>石油ガス、海洋、地熱、温泉などの資源開発機材の取扱い</p>    <p>©JAMSTEC</p>	<p>注力分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海底鉱物資源探査</li> <li>メタンハイドレート</li> <li>地震の震源域調査</li> <li>地熱</li> </ul>
<p>ケムインター</p>	<p>精密化学品、医薬中間体 などの取扱い</p>    	<p>注力分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>液晶・電子材料</li> <li>精密化学品</li> </ul>

## 6. 技術サポートと子会社

### 三洋貿易株式会社（親会社）

- メーカー並の技術的サポートが可能
- 技術系商社として開発段階から参加
- 営業員の約半数以上が技術系

### 1973年 三洋機械工業株式会社設立（機械環境事業部）

- 機械・環境事業部が販売したペレットミルのアフターサービス、付帯機器の設計・製造、消耗部品の保管
- 伊勢原新工場で木質バイオマス用テストプラントを設置



### 2004年 三洋東知（上海）橡膠有限公司（ゴム事業部、非連結）

- 中国における日系企業向けゴムコンパウンド事業の拠点、80%出資
- ゴムコンパウンドの製造・販売
- 主な用途：自動車、家電、情報機器、建築用ゴム部品



### 2006年 三洋古江サイエンス株式会社（科学機器事業部、非連結）

- 分析機器・試験機の開発、設計、設置据付、試運転、トレーニングなど
- 三洋テクノス(株)として設立後、2017年9月に古江サイエンス(株)を吸収合併し、現商号に変更



### 2016年 日本ルフト株式会社（科学機器事業部）

- 在宅医療機器分野への新規進出

### 2017年 日本フリーマン株式会社（産業資材事業部）

- 精密鋳造分野への新規進出

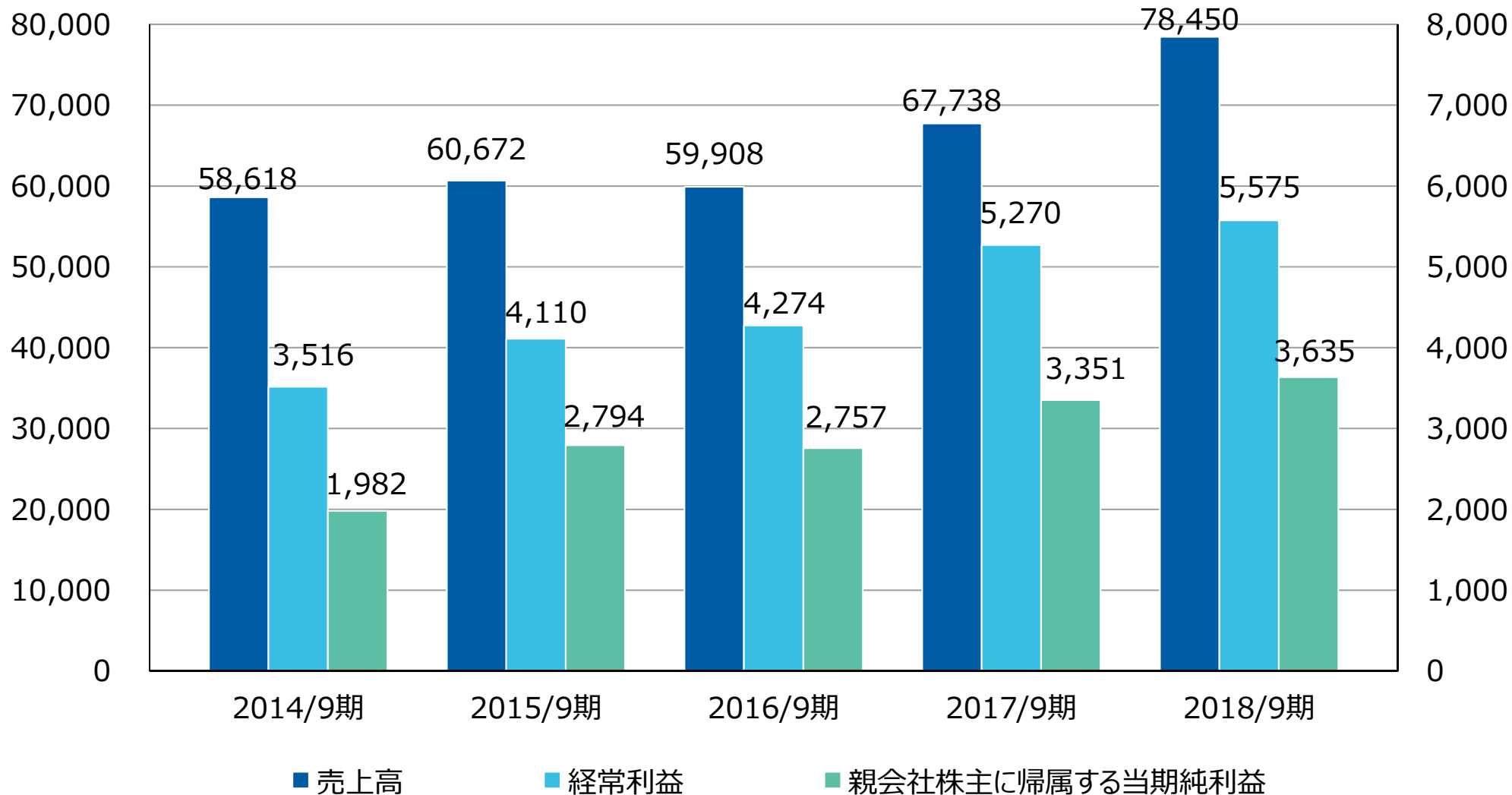
### 2017年 アズロ株式会社（化学品事業部、非連結）

- 医薬品、化学品等の輸入販売

# 7. 売上・利益推移

(売上高：百万円)

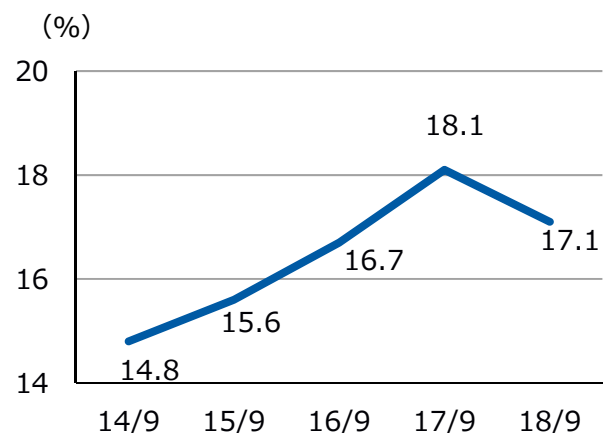
(経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益：百万円)



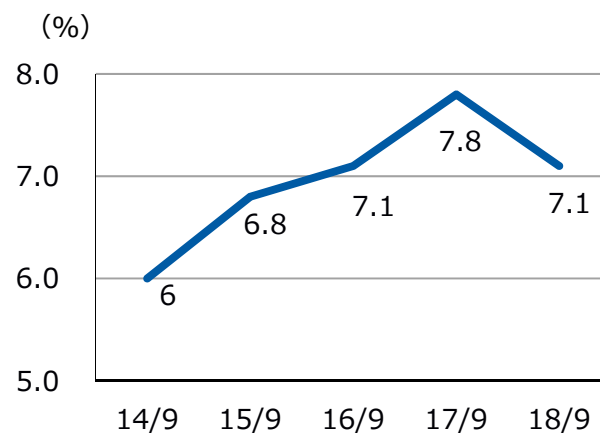
# 財務比率の推移

- 売上に対する利益率、資産および資本に対する利益率とも増加傾向

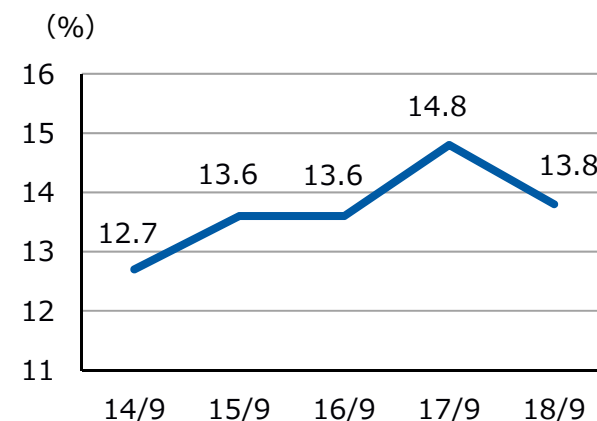
## 売上高総利益率



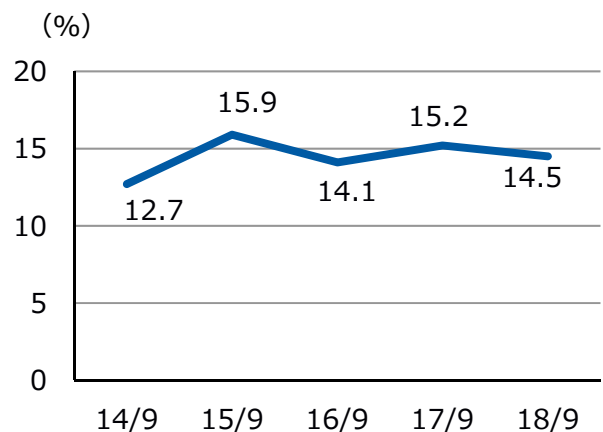
## 売上高経常利益率



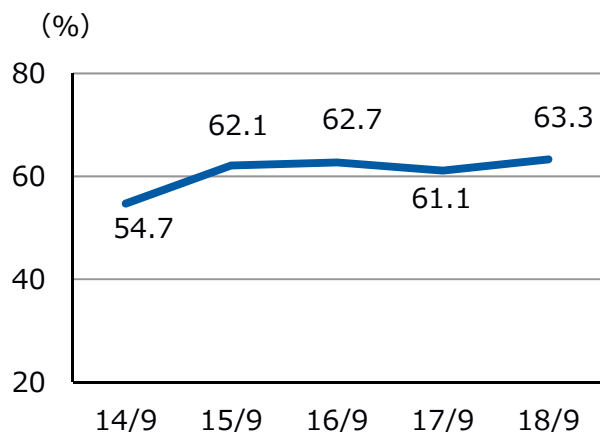
## 総資産経常利益率 (ROA)



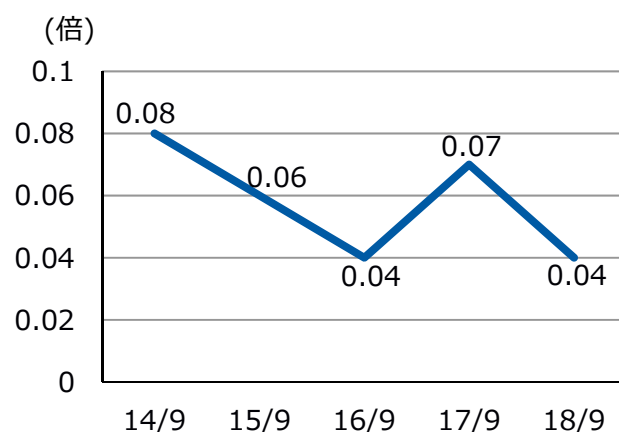
## 自己資本利益率 (ROE)



## 自己資本比率



## D/Eレシオ



## IRに関するお問い合わせ先

三洋貿易株式会社 取締役兼執行役員 経営戦略室長 新谷 正伸

電話 : 03-3518-1111 e-mail : ir@sanyo-trading.co.jp

### 将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。



